

偉大な人物

渋河勘右衛門清房

清房さんは、寛永四年（一六六四）下阿井堀の竹の内（今の藤原健氏宅）で生まれ、二十四才にして父の跡を継ぎ庄屋をつとめました。二十八才の時には郡役人である与頭、下郡などの要職に就き、村行政・郡行政に立派な働きをした人でした。また当時の農業振興にも努力した偉大なる開拓者でもありました。

今から約三百年位前までは、山根飛田氏附近より奥湯谷川沿いに北に向かって山があり、松林が多い松崎山と呼んでいました。その山を清房さんは自費を投じて開闢し立派な水田をつくりました。何年間を要したかは不明ですが、完成は正徳四年（一七一四）でした。

清房さんは、その完成を記念して下阿井田圃が一望出来る、下阿井大橋（旧新在家橋）北詰の山の中腹（矢の廻）、今の難波栄氏墓地の隣りに、自らの筆による文字を刻み石碑を残されています。

また、清房さんは下阿井田圃一円を、今で言う圃場整備を江戸時代に行った人でもあります。

法名、桃林軒退翁良仙居士として長栄寺の墓地に静かに眠っております。【宝暦二年（一七五二）八十九才で死亡】石碑には、次の様に記されています。

正徳四年甲午年

松崎山開闢渋河勘右衛門清房

李春 上浣 自筆 焉

石碑建立地から松崎山を臨む



長栄寺から竹ノ内・矢の廻を臨む